



## 本日はよくお参り下さいました

秋の気配を感じるようになってきた今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。このひと月の話題といえば、リオオリンピックだったと思います。数々の名場面の中で私がとりわけ印象的だったのは、シンクロナイズドスイミングの団体の決勝です。曲は天照大神をテーマにした『AMATERASU～輝く夜明け～』。天照大神は、太陽のように光り輝く女神ですが、男性顔負けの勇ましい性格であったと伝えられています。演技には神話の世界観が再現され、天の岩戸におかくれになった天照大神が岩戸から飛び出すと世界は急に明るくなり、日本の祭りとりオのカーニバルが融合したような音楽と振り付けに釘付けでした。またシンクロだけでなく、日本選手団の帰国後の記者会見では、多くのメダリストが自信に満ちた表情で四年後の東京五輪を見据えた発言をしている姿にも感動を覚えました。皆さんは、どんな場面が心に残りましたか？引き続きパラリンピックも応援したいですね。今月も皆さまのご安寧とご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜道子



## 9月

1日・15日 月次祭(つきなみさい)皇室の弥栄と国家の発展、氏子・崇敬者並びに社会の幸福と平和を祈る。

7日 白露(はくろ)白露は「しらつゆ」の意で、この頃、秋気も本格的に加わり、野草に宿るしらつゆが、秋の趣をひとしお感じさせる。せきれいが鳴き始め、つばめが去っていく。暦の上では秋。

15日 十五夜

19日 敬老の日

高齢者を敬愛し長寿を祝う

19日～25日 彼岸

彼岸は「日願(ひがん)」から来ていると言われている。古来から、太陽や祖霊を崇める習わしがもとになっている行事。

22日 秋分(彼岸の中日)太陽が真東から昇り真西に沈む。先祖を敬い、亡くなった人の御霊を偲ぶ日。又この日は春分と同じく昼と夜の長さがほぼ等しい。まだ夏の暑さの名残がある。雷が鳴らなくなり、虫は地中に隠れ、水が涸れ始める。台風のシーズンでもある。

22日 秋季皇霊祭(しゅうきこうれいさい) もとは祝祭日の中の大祭日の一つ。毎年秋分の日に、宮中の皇霊殿(こうれいでん)で、天皇陛下、御自ら歴代の天皇陛下・皇后陛下・皇族の方々など、皇祖の神霊をおまつりする儀式が行われる。



## 天神さまの豆知識

― 神宿る山と鎮守の森 ―  
かつて、日が落ちれば闇に覆われていた頃、日が昇っている間は人の世界で、落ちれば人ならざるもの、すなわち神々や妖怪のたちの世界と考えられていました。夕暮れを意味する黄昏(たそがれ)＝誰そ彼とは、見分けにくい相手が人なのか神なのかを問う言葉だとも言われています。人が簡単に立ち入れない山や森は、神々の世界であり、登ることの困難な山頂や、樹木に覆われた薄暗い山奥には神々がおわします。また、人は、秀麗な山の形には神の姿を見て、噴火する山には神の力を感じます。命の営みに神性を見出す日本人は、良くも悪くも自然の大きな力は神の力であり、人がそれとどう向き合うかによって、恵みを受くか祟りをこらむるかに分かれると考えます。厳密な区分があるわけではありませんが、神々のまします山のうち、富士山のような円錐形の高い山は神体山といわれ、低い山や森は神奈備(かなび)といわれています。また神社の多くは鎮守の森と呼ばれる木々に囲まれています。これは森に神が鎮まる事(由来)しているのです。



鎌田東一監修 東京美術発行

参考文献『すべわかる日本の神々』

## お祭り歳時記

流鏑馬(やぶさめ) 九月十六日

鎌倉市鶴岡八幡宮例大祭  
武士の鍛錬方法として行われた馬術と弓術を組み合わせた鶴岡八幡宮の流鏑馬神事は、一八七七年源頼朝公により始められました。当日午後一時、舞殿において流鏑馬神事の執行が奉告されると、射手定(いでさだめ)を経て選ばれた選ばれた射手は、神職より弓矢を授けられ、騎乗して境内を東西に貫く馬場へと入場します。鎌倉武士さながらの狩装束を身にまとった射手が、約二五〇メートルの馬場を、三つの板的を次々と鏑矢で射ながら駆け抜ける様は、大変勇壮で見ごたえがあります。

## 今月の言葉

『上善は水の如し』老子

「上善」とは、もっとも理想的な生き方を指す。そういう生き方をしたいと願うなら水に学べ、というのだ。では水のどういう点に学べというのか。まず、水は極めて柔軟である。どんな形の器にも逆らわずに、器なりに形を変えていく。次に、水はまことに謙虚である。自分を主張することなく、自然に低いところに流れていく。さらに、水は静かな流れのなかにも巨大なエネルギーを秘めている。つまり、柔軟さ、謙虚さ、秘めたるエネルギー、この三つを身につければ、人間も理想の生き方に近づくことができるのだという。

参考文献『中国古典一日一語』  
守屋 洋著 三笠書房発行